

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 平成29年10月16日

【四半期会計期間】 第2期第2四半期(自平成29年6月1日至平成29年8月31日)

【会社名】 ダイユー・リックホールディングス株式会社

【英訳名】 DAIYU・LIC HOLDINGS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 浅倉 俊一

【本店の所在の場所】 福島県福島市太平寺字堰ノ上58番地

【電話番号】 024(563)6818(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営戦略室長 三瓶 善明

【最寄りの連絡場所】 福島県福島市太平寺字堰ノ上58番地

【電話番号】 024(563)6818(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営戦略室長 三瓶 善明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第2期 第2四半期 連結累計期間	第1期
会計期間		自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日	自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日
売上高及び営業収入	(千円)	41,151,718	65,894,966
経常利益	(千円)	1,475,822	1,902,254
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	995,345	1,108,740
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	1,023,652	1,108,077
純資産額	(千円)	13,384,963	12,557,547
総資産額	(千円)	55,571,064	52,381,208
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	67.49	88.69
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	67.17	88.22
自己資本比率	(%)	22.2	22.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	5,197,915	677,467
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	232,357	1,519,696
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	3,096,004	2,606,673
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	6,449,061	4,579,508

回次		第2期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	33.55

- (注) 1. 当社は、平成28年9月1日に株式会社ダイユーエイト及び株式会社リックコーポレーションが、共同株式移転の方法により両社を完全子会社とする株式移転設立完全親会社として設立されました。設立に際し、株式会社ダイユーエイトを取得企業として企業結合会計を行っているため、前連結会計年度(平成28年3月1日～平成29年2月28日)の連結経営成績は、取得企業である株式会社ダイユーエイトの前連結会計年度の連結経営成績を基礎に、株式会社リックコーポレーション及びその関係会社の平成28年9月1日～平成29年2月28日の経営成績を連結したものであります。
2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 当社は平成28年9月1日設立のため、前第2四半期連結累計期間に係る記載はしておりません。
4. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
5. 前連結会計年度の1株当たり当期純利益金額は、当社が平成28年9月1日に株式移転によって設立された会社であるため、会社設立前の平成28年3月1日から平成28年8月31日までの期間につきましては、株式会社ダイユーエイトの期中平均株式数に株式移転比率を乗じた数値を用いて計算しております。
6. 当第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度の関連する主要な経営指標等について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） セグメント情報」の「3．報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成29年3月1日～平成29年8月31日）におけるわが国経済は、上場企業の配当額が5年連続で過去最高を更新する等、企業収益の改善・雇用の拡大もあって景気は緩やかながら回復基調を維持しております。

一方で、原油価格の下落、新興国経済の減速や保護主義的な政策動向を背景とした世界経済の不安定化のほか、日本銀行によるマイナス金利政策実施の影響も見通せず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

個人消費は、消費税率引き上げ後の需要の弱さを可処分所得の増加でカバーできない構図から横ばいの状況にあり、“低価格志向・節約志向”といった消費マインドも根強く、本格的な個人消費の回復には至っていない状況にあります。

このような状況下、当社グループは、経営統合後のシナジー効果創出のため、商品統合により着実に荒利益率の改善を進めているほか、さらなる成長戦略実現に向け当第2四半期連結累計期間におきましても以下のとおり積極的に新規出店を行いました。

ダイユーエイト	ホームセンターダイユーエイト白河店	(開店3月 福島県)
	ワンズサイクル会津若松駅前店	(開店3月 福島県)
	ワンズサイクル須賀川店	(開店6月 福島県)
	ホームセンターダイユーエイト南三陸店	(開店7月 宮城県)
アミーゴ	ペットワールドアミーゴ小名浜店	(開店3月 福島県)
	ペットワールドアミーゴ古川駅前店	(開店8月 宮城県)
ジョーカー	DOG&CAT JOKER 東急百貨店たまプラーザ店	(開店3月 神奈川県)
	DOG&CAT JOKER WANCOTT店	(開店3月 神奈川県)

一方、店舗老朽化と市場環境の変化から4店舗を閉鎖いたしました結果、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は186店舗となりました。

また、3月1日には、ダイユーエイト及びリックコーポレーションのペット事業を統合・分社化して(株)アミーゴを設立したほか、(株)アレンザ・ジャパン（輸入卸売事業）を完全子会社としたことで、一連のグループ内組織再編が終了いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の連結売上高は、397億8千7百万円、連結営業利益は13億6千7百万円、連結経常利益は14億7千5百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億9千5百万円となりました。なお、当社は、平成28年9月1日に設立したため、前年同四半期連結累計期間との対比は行っておりません。

セグメント業績は次のとおりであります。

#### [ダイユーエイト]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で2.0%増加しましたが、来店客数が前年同期比で1.9%減少したことから、既存店売上高は0.1%の微増となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、春先は、灯油販売額が伸張するような低温と天候不順により季節商品販売の出足が鈍い状況にありましたが、ゴールデンウィークを境にようやく気温が上昇し、園芸・植物、用土、肥料等の売上が伸張いたしました。夏場も長期予報に反し長雨・冷夏となり、季節商品の販売が苦戦いたしました。一方で、当社が注力しております木材塗料、工具金物、作業資材、作業衣料等のホームニーズ関連商品が前年対比で売上を伸ばしたほか、HD創立1周年記念感謝セールがお客様からご支持いただき、日用品・家庭用品等の売上も堅調に推移いたしました。

また、今期は、他業態との差別化を念頭に、従来から進めておりました「ホームセンターらしさ」を一層強化するため、農業関連素材用品の専門バイヤーを配置し、農家需要へ対応すべく品揃えを強化いたしました。その他、防犯防災用品の強化に努めたほか、新商品の導入や、メーカーフェア等新企画の増加により、お客様に対し需要創造を喚起いたしました。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント売上高は204億2千2百万円、セグメント利益（営業利益）は7億2千3百万円となりました。

## [リックコーポレーション]

ホームセンター事業は、既存店ベースで、客単価が前年同期比で0.1%の減少、客数が前年同期比で横這いであったため、既存店売上高は0.1%減少いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、天候に恵まれた日が続いたことにより用土・園芸肥料等の園芸・植物の売上高は好調に推移いたしました。シーズン前半に好調であった季節商品は、夏物家電やレジャー用品等を中心に低迷いたしました。また、ハッピープライス（生活応援品の月間特売）、チラシ掲載商品の価格訴求、各種キャンペーン等を強化したことが、お客様が購入される販売点数の増加につながりました。一方で、お客様の節約志向が続いている中、「広島商工センター店リニューアル1周年」「伊予三島店オープン20周年」等の促進に努めましたが、売上高及び客数は前年未達となりました。

そのような状況の中、お客様から更なるご支持をいただくために、シニアデー5%割引セールや夏のトラベルキャンペーン、カード会員を対象とした内見会を行った他、新たにシニア会員限定スタンプラリーを開始する等、ロイヤルカスタマー政策を実行いたしました。また、教育プロジェクトでは、様々なお客様のご要望にお応えするための教育や各種研修はもとより従業員の資格取得を推進する等、人材育成を図っております。経費削減の取組みにつきましては、作業に応じた人員の配置、残業時間の大幅な削減実施等により、間接部門のコスト圧縮を図っております。

これらの結果、リックコーポレーションにおけるセグメント売上高は81億8千万円、セグメント利益(営業利益)は3億1千万円となりました。

## [アミーゴ]

アミーゴは、ダイユーエイト、リックコーポレーションのペット事業を統合・分社化し、3月1日より全国60店舗体制で事業をスタートいたしました。

売上高における既存店ベースでは、客単価が前年同期比で0.4%の増加、客数が前年同期比微増であったことから、既存店売上高は0.4%増加いたしました。

ペットの健康、美容にこだわりを持つお客様が増加傾向であることから、主力商品であるプレミアムフードを中心とした専門店商品の販売に注力したこと、マイクロバブル、炭酸泉といったトリミングに付加価値をプラスしたサービスの普及が進んだこと等により客単価は伸長しております。一方で、他業態を含む競合他社による新規出店、価格競争の激化により、消耗品の販売数は減少いたしました。

そのような状況の中、ダイユーエイト、リックコーポレーション両社の仕組み・ノウハウを継承したアミーゴは、それぞれの取り組み、サービスを水平展開し、全店統一したサービスの実現、接客知識、技術向上に努めております。また、従来の愛玩動物である犬、猫に加え、飼育しやすくトレンドになっているウサギなどの小動物、爬虫類の販売強化、各種イベントの強化により、量販店とは一線を画した店舗づくりを目指し、専門知識を有した人材育成に取り組む等、更なる集客力の向上に努めております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント売上高は78億8千7百万円、セグメント利益(営業利益)は1億8千6百万円となりました。

## [その他]

セグメント売上高は65億4千万円、セグメント利益(営業利益)は4億2百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して31億8千9百万円増加して555億7千1百万円となりました。この主な要因は、現預金の増加及び新規出店に伴うたな卸資産及び有形固定資産の増加等であり、負債は前連結会計年度末と比較して23億6千2百万円増加して421億8千6百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金の増加、電子記録債務の増加、短期借入金の減少、未払法人税等の増加、長期借入金の減少等であり、純資産は前連結会計年度末と比較して8億2千7百万円増加して133億8千4百万円となりました。この主な要因は利益剰余金の増加等であり、以上の結果、自己資本比率は22.2%となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ18億6千9百万円増加し、64億4千9百万円となりました。

なお、当社は平成28年9月1日に設立したため、前年同四半期連結累計期間との対比は行っておりません。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は51億9千7百万円となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益15億9千万円、減価償却費8億2千4百万円、仕入債務の増加32億9千7百万円等により資金が得られましたが、法人税等の支払額2億8千万円等に資金が使用されたことによるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は2億3千2百万円となりました。この主な要因は、有形固定資産の売却による収入により5億9千9百万円等により資金が得られた一方、有形固定資産の取得による支出8億6千8百万円、敷金及び保証金の差入による支出1億2千5百万円等に資金が使用されたことによるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は30億9千6百万円となりました。この主な要因は、長期借入れによる収入18億5千5百万円により資金が得られた一方、短期借入金の減少22億円、長期借入金の返済による支出22億3千5百万円、リース債務の返済による支出2億7千5百万円、配当金の支払額1億8千9百万円等により資金が使用されたことによるものです。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年10月16日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,174,203	15,174,203	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	15,174,203	15,174,203		

(注) 提出日現在発行数には、平成29年9月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減額 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年6月1日～ 平成29年8月31日		15,174,203		2,000,000		9,104,041

## (6) 【大株主の状況】

平成29年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社アサクラ・HD	福島県福島市大笹生字座頭石26-8	1,343	8.85
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-11	536	3.53
株式会社東邦銀行	福島県福島市大町3-25	434	2.86
浅倉俊一	福島県福島市	428	2.82
株式会社みずほ銀行	東京都江東区福住2-5-4	249	1.64
ダイユーエイト社員持株会	福島県福島市太平寺字堰ノ上58	197	1.30
浅倉友美	福島県福島市	181	1.19
アイリスオーヤマ株式会社	宮城県仙台市青葉区五橋2-12-1	175	1.15
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2-11-3	174	1.15
浅倉俊之	福島県福島市	159	1.05
計		3,881	25.57

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成29年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 428,500		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,596,400	145,964	同上
単元未満株式	普通株式 149,303		
発行済株式総数	15,174,203		
総株主の議決権		145,964	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の名義書換失念株式が3,108株(議決権31個)含まれております。

## 【自己株式等】

平成29年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己所有株式) ダイユー・リック ホールディングス株式会社	福島県福島市太平寺字堰 ノ上58番地	428,500		428,500	2.8
計		428,500		428,500	2.8

## 2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社は平成28年9月1日設立のため、前第2四半期連結累計期間に係る記載はしていません。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年6月1日から平成29年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,105,454	6,943,827
売掛金	555,727	703,041
たな卸資産	1 13,664,261	1 14,136,438
その他	1,679,844	1,688,574
貸倒引当金	3,213	2,836
流動資産合計	21,002,074	23,469,044
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,006,349	30,686,940
減価償却累計額	17,870,448	18,228,765
建物及び構築物(純額)	12,135,900	12,458,174
土地	4,327,385	4,317,532
リース資産	2,640,333	2,797,963
減価償却累計額	1,115,894	1,237,502
リース資産(純額)	1,524,438	1,560,460
その他	2,885,090	3,524,662
減価償却累計額	1,533,404	1,581,876
その他(純額)	1,351,686	1,942,785
有形固定資産合計	19,339,411	20,278,953
無形固定資産		
のれん	2,395,236	2,333,819
その他	1,893,131	1,913,045
無形固定資産合計	4,288,367	4,246,865
投資その他の資産		
敷金及び保証金	5,361,147	5,290,951
その他	2,452,392	2,347,334
貸倒引当金	62,185	62,085
投資その他の資産合計	7,751,355	7,576,201
固定資産合計	31,379,133	32,102,019
資産合計	52,381,208	55,571,064

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	4,688,948	5,105,829
電子記録債務	3,000,477	5,880,671
短期借入金	4,550,000	2,350,000
1年内返済予定の長期借入金	4,374,749	4,391,710
リース債務	530,194	547,912
未払法人税等	259,836	559,001
ポイント引当金	293,980	286,847
転貸損失引当金	46,712	46,212
その他	3,336,870	4,722,064
流動負債合計	21,081,768	23,890,248
<b>固定負債</b>		
長期借入金	13,975,625	13,578,397
リース債務	1,280,870	1,325,776
役員退職慰労引当金	71,670	74,945
転貸損失引当金	40,259	17,153
退職給付に係る負債	432,382	443,301
資産除去債務	973,424	976,055
その他	1,967,659	1,880,223
固定負債合計	18,741,892	18,295,852
負債合計	39,823,660	42,186,100
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	4,375,368	4,375,368
利益剰余金	5,249,950	6,053,588
自己株式	164,809	165,662
株主資本合計	11,460,509	12,263,294
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	91,512	91,196
退職給付に係る調整累計額	17,655	13,648
その他の包括利益累計額合計	73,856	77,547
新株予約権	41,614	41,614
非支配株主持分	981,566	1,002,507
純資産合計	12,557,547	13,384,963
負債純資産合計	52,381,208	55,571,064

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
売上高	39,787,275
売上原価	26,679,113
売上総利益	13,108,161
営業収入	1,364,442
営業総利益	14,472,604
販売費及び一般管理費	1 13,104,746
営業利益	1,367,857
営業外収益	
受取利息	16,608
受取配当金	4,917
受取手数料	178,603
その他	65,949
営業外収益合計	266,079
営業外費用	
支払利息	101,065
借入手数料	40,343
その他	16,706
営業外費用合計	158,114
経常利益	1,475,822
特別利益	
固定資産売却益	6,492
受取損害賠償金	46,015
受取補償金	78,594
その他	2,037
特別利益合計	133,139
特別損失	
固定資産除却損	8,229
減損損失	5,509
その他	4,437
特別損失合計	18,176
税金等調整前四半期純利益	1,590,785
法人税、住民税及び事業税	586,816
法人税等調整額	15,980
法人税等合計	570,835
四半期純利益	1,019,949
非支配株主に帰属する四半期純利益	24,604
親会社株主に帰属する四半期純利益	995,345

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
四半期純利益	1,019,949
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	304
退職給付に係る調整額	4,007
その他の包括利益合計	3,702
四半期包括利益	1,023,652
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	999,036
非支配株主に係る四半期包括利益	24,615

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成29年3月1日  
至平成29年8月31日)

<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	1,590,785
減価償却費	824,707
減損損失	5,509
のれん償却額	61,416
貸倒引当金の増減額(は減少)	477
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	16,990
受取利息及び受取配当金	21,526
支払利息	101,065
借入手数料	40,343
受取損害賠償金	46,015
受取補償金	78,594
固定資産売却損益(は益)	6,492
固定資産除却損	8,229
売上債権の増減額(は増加)	147,313
たな卸資産の増減額(は増加)	472,177
仕入債務の増減額(は減少)	3,297,075
未払消費税等の増減額(は減少)	92,988
その他	283,207
小計	5,549,721
利息及び配当金の受取額	11,621
利息の支払額	97,699
借入手数料の支払額	31,461
損害賠償金による収入	46,015
法人税等の支払額	280,282
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,197,915
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	868,806
有形固定資産の売却による収入	599,162
有形固定資産の除却による支出	14,612
無形固定資産の取得による支出	11,734
敷金及び保証金の差入による支出	125,893
敷金及び保証金の回収による収入	221,585
定期預金の預入による支出	222,721
定期預金の払戻による収入	253,902
その他	63,238
投資活動によるキャッシュ・フロー	232,357

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成29年3月1日  
至平成29年8月31日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額（は減少）	2,200,000
長期借入れによる収入	1,855,000
長期借入金の返済による支出	2,235,267
リース債務の返済による支出	275,865
社債の償還による支出	45,800
配当金の支払額	189,543
自己株式の取得による支出	853
非支配株主への配当金の支払額	3,675
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,096,004
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,869,553
現金及び現金同等物の期首残高	4,579,508
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 6,449,061

## 【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)	
(会計上の見積りの変更)	
<p>第1四半期連結会計期間より、連結子会社である株式会社アミーゴが運営するペット専門店の一部において、通常の販売目的で保有するたな卸資産について、従来、売価還元法による低価法を採用していましたが、売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。</p> <p>これは平成29年3月1日付で株式会社ダイユーエイトおよび株式会社リックコーポレーションがそれぞれ営むペット事業を統合・分社化したことにより店舗運営の統一性、効率性を高めることを目的として、仕入・物流・販売に係る基幹システムを変更したことに伴うものであり、平成29年3月1日より新基幹システムが本稼動したことによるものであります。</p> <p>これにより、従来の方と比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益、営業総利益、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が51,823千円増加しております。</p>	

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)	
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

## 1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
商品	13,454,071千円	13,838,501千円
原材料及び貯蔵品	210,189 "	297,937 "

(四半期連結損益計算書関係)

## 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
給料及び手当	4,019,640千円
退職給付費用	93,469 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
現金及び預金勘定	6,943,827千円
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	494,765 "
現金及び現金同等物	6,449,061千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月26日 定時株主総会	普通株式	191,707	13.00	平成29年2月28日	平成29年5月29日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議予定	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月19日 取締役会	普通株式	191,693	13.00	平成29年8月31日	平成29年11月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	ダイユー エイト	リックコーポ レーション	アミーゴ	計		
売上高(注)2						
外部顧客への売上高	20,159,417	8,007,559	7,887,629	36,054,605	5,097,112	41,151,718
セグメント間の内部 売上高又は振替高	262,879	173,422		436,302	1,443,850	1,880,153
計	20,422,297	8,180,981	7,887,629	36,490,907	6,540,963	43,031,871
セグメント利益	723,854	310,924	186,056	1,220,835	402,290	1,623,125

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイユー・リックホールディングスにおける取引等のほか、ダイユー・リックホールディングス、ダイユーエイト、リックコーポレーション及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

(注)2 売上高には、営業収入を含めております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,220,835
「その他」の区分の利益	402,290
セグメント間取引消去	217,834
のれんの償却額	61,416
固定資産の調整額	27,882
その他	3,900
四半期連結損益計算書の営業利益	1,367,857

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より連結子会社であった株式会社アミーゴに対して、3月1日付でダイユーエイト、リックコーポレーション両社のペット事業を会社分割したことにより「アミーゴ」を新たに報告セグメントに含めております。

また、前連結会計年度において、報告セグメントとしていた「日敷」は、量的な重要性が乏しくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しております。これにより、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントにおいて、「日敷」の売上高32億1千8百万円、セグメント利益6千8百万円が減少しており、「その他」が同額増加しております。

## 4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度より連結子会社であった株式会社アミーゴに対して、3月1日付でダイユーエイト、リックコーポレーション両社のペット事業を会社分割したことにより「アミーゴ」を新たに報告セグメントに含めております。

当該会社分割により、「ダイユーエイト」の資産の金額が547百万円減少、「リックコーポレーション」の資産の金額が4,233百万円減少し、「アミーゴ」の資産の金額が4,780百万円増加しております。



## (企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成29年6月1日至平成29年8月31日)

## 1. 企業結合における暫定的な会計処理の確定

平成28年9月1日に行われた株式会社リックコーポレーションとの企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第2四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、暫定的に処理されたのれんの修正額は、次のとおりであります。

修正項目	のれんの修正金額
のれん(修正前)	2,565,540 千円
その他(無形固定資産)	156,000 "
繰延税金負債	47,112 "
修正金額合計	108,888 "
のれん(修正後)	2,456,652 千円

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額2,565,540千円は、会計処理の確定により108,888千円減少し、2,456,652千円となっております。また、前連結会計年度末の無形固定資産の「その他」が152,100千円増加し、無形固定資産の「のれん」が106,165千円、投資その他の資産の「その他」に含まれる繰延税金資産が45,934千円減少しております。

## 2. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

## (1) 発生したのれんの金額

2,456,652千円

## (2) 発生原因

取得原価が企業結合時の時価純資産額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。

## (3) 償却方法及び償却期間

20年にわたる均等償却

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	67円49銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	995,345
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	995,345
普通株式の期中平均株式数(株)	14,746,238
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	67円17銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	
普通株式増加数(株)	71,411
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年10月16日

ダイユー・リックホールディングス株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 富 樫 健 一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 満 山 幸 成 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているダイユー・リックホールディングス株式会社の平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年6月1日から平成29年8月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ダイユー・リックホールディングス株式会社及び連結子会社の平成29年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。